

## はじめに

昨年の3月、日本は大きな悲しみに包まれました。私たちは各種メディアを通して、大震災を目の当たりにし、心を痛めました。その思いは様々な形での支援となり、活動を通して日本中の人々の心は結び付いていったように思います。また、震災直後から話題になったことの一つに、日本人のモラルの高さがありました。これにより、日本の教育水準の高さや、教育の担ってきた役割を教育関係者として改めて痛感することとなりました。

本県では、国の教育改革、県総合計画「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」の教育関連分野を踏まえ、「有徳の人」の育成に向けて、本年度から「静岡県教育振興基本計画」がスタートしました。また、新学習指導要領が、小学校で全面実施、中学校では来年度完全実施を控えています。このような変革期においては、一人一人の主体的な学びの姿勢を高め、よりよい自分をつくっていく子どもを育む上で、教育の担い手である教職員の果たす役割が大きくなります。当センターにとっても、学校教育の充実のために、指導の具体的な内容や方法等を研究開発し、学校や地域に還元していくことが益々重要な責務になると考えております。

こうした中、長期研修員は、教員としての資質の向上と見識の<sup>かん</sup>涵養に努め、併せて学校及び地域の教育を推進する実践力を養うことを目的に、1年間研修を積んできました。この報告書は、所属校が抱える課題や教育実践上の課題を基に、長期研修員自身が設定したテーマについて、「教育活動において研究と実践は一体である」ことに十分留意し、日々研鑽<sup>きん</sup>を重ね、まとめたものです。研究のキーワードである「イメージ化を通じた合意形成」「日常的な授業改善の活性化」「若手教員支援プログラム」「社会参画」「滑らかな小・中の接続」「音楽科における学力の育成」「カウンセリング心理学的手法を生かした指導・支援」は、これからの教育を進める上で大切な課題と考えております。

いずれの報告においても、長期研修員の教育課題解決への意気込みとともに学校及び地域の教育を推進するための実践力の向上につながる数々の方策を読み取っていただけるものと思います。

これらの報告を学校における日々の教育活動の参考として御活用いただければ幸いです。また、内容についての率直な御意見をいただきたいと存じます。

結びに、長期研修員の研究に際して、御支援と御協力をいただきました学校及び関係教育機関の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

静岡県総合教育センター  
所長 三ッ谷 三善